

完成しました温水プール

「湯夢湯夢の里」に新たな魅力



オープンは1月5日

平成二年度から三カ年の継続事業で工事を進めていた湯夢湯夢の里温水プールが、十二月十五日完成しました。温水プールは、ふるさと創生大滝温泉蘇生事業として、市が整備している「湯夢湯夢の里」のメイン施設。大滝温泉の新しい顔として一月五日にオープンします。今回は、この温水プールをご紹介します。

透光機能を持つ

ドーム型の屋根

温水プールは、鉄筋コンクリート造り一部二階建てで延床面積約二千五百六十平方メートル、総事業費約八億九千四百万円で建設されました。建物の中には、直径三十五メートルの円周に幅五メートル・長さ約百メートルの水が流れる円型プール、その内側には児童用プールと幼児用プールが設けられています。また、高さ五メートル・長さ五十四メートルのウォータースライダーのほか、二十五メートル×十二メートルの練習用プール、更衣室、事務室などが設けられています。

屋根は、ドーム型のテフロン製のテント幕（東京ドームの天上とほぼ同じ材質）と網入れガラス製の三角窓を使用していて、天井から外の光を採り入れられるようになっていきます。オープンは一月五日です。当日後二時から午後五時までと六日から八日までの午前九時から午後五時までは、オープン記念の無料開放します。

大滝温泉の

活性化に

ふるさと創生大滝温泉蘇生事業は、国のふるさと創生交付金一億円を活用し、低迷している大滝温泉の活性化と市経済全般への波及効果をねらいとして計画されました。全体計画のうち湯夢湯夢の里は、市が平成二年度から三カ年の計画で整備を進めていたもので、現在までの事業費は約十二億円となっています。これまでに、イベントなどができるふるさと広場、カリヨン（音の鳴る木）、浴場、浴場に付帯した露天ぶろと休憩室、子供の遊び場、駐車場などが完成しています。湯夢湯夢の里整備は、メイン施設の温水プールの完成で一応の区切りをつけますが、利用者の利便を図るため、来年度は休憩所建設などを検討しています。